北海道とタイ国政府観光庁が観光交流促進で調印

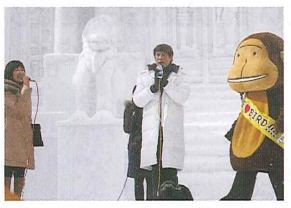
昨年からタイ国際航空（TG）のバンコク／札幌線が開設されるなど、交流機運が高まっている北海道とタイの間でこのほど、観光促進に関する趣意書について合意が成立。調印式が、さっぽろ雪まつりの会場で行われ、今後の双方向の旅行者増加が期待されることになった。

今回の趣意書（LOI）は、北海道とタイ国政府観光庁（TAT）、札幌市とTATが、それぞれ取り交わしたもので、両趣意書とも2013年2月5日から2016年3月31日までの期間中、「相互利益のため観光促進において敬意を持って協力すること」を確認するためのものだ。

北海道とTATの趣意書に盛り込まれた具体的な取り組みとしては、TATが北海道で実施する長期滞在観光プロモーションや、北海道がバンコクで開催する特産品展示会などといった双方の観光促進イベントを互いに支援することや、情報交換により、旅行会社などへのプロモーションを互いに支援すること、旅行業セミナーや旅行見本市・展示会などを開催する場合にはマーケティング活動の調整を支援することなどが挙げられている。またTATと北海道のホームページの相互リンクなどを通じて、それぞれ観光客に有益な情報を提供することも約束されている。

タイは北海道民にとって冬の避寒地、あるいはゴルフ・リゾートとして人気が高く、TGの直行便開設により観光目的地としてのタイの認知度や人気の上昇が期待されている。

2月5日の調印式には北海道の高橋はるみ知事と札幌市の上田文雄市長のほか、道議会議長、市議会議長なども出席。タイ側はスラポン・サウェートセラニーTAT総裁やタナティップ駐日タイ王国大使ご夫妻らが出席。調印式は、両国国歌演奏やタイ民族舞踊のショー、マスコット・キャラクターの交換を交えて華やかに執り行われた。また同日にはタイの国民的スーパースターであるトンチャイ・メーキンタイ（通称・バードさん）も来日し、北海道放送（HBC）国際親善広報大使に任命された。



タイが受賞した「さっぽろ雪まつり」会場で調印

調印式が行われたのは「さっぽろ雪まつり」会場。タイが「ラーマ5世によって建てられた王立寺院、ワット・ベンチャマボピット（別名・大理石寺）」をテーマに出展した高さ15mの大雪像前の、特設ステージで行われた。雪まつりでは毎年、札幌とつながりの深い外国地域の大雪像を制作しているが、2012年が日タイ修好125周年だったことに加え、TG直行便就航で札幌とタイの結びつきが強まっているため、今年はタイの大雪像が造られることになった。また国際雪像コンクールではタイの出展作が2010年以来、3年ぶり4回目の優勝となった。同じ国が大雪像コンクールで4回も優勝するのは初めてという快挙で、しかも今年はタイ王室の日本公式訪問50周年に当たる。北海道とタイの観光交流促進は、調印式から慶事の重なる縁起のいいスタートとなった。

今年もゴルフのプロモーションを強化

TATは今年もゴルフのプロモーションに注力する。2月15日～17日に東京ビッグサイトで開催された第47回「ジャパン・ゴルフフェア2013」にもTATがブースを設け、来場者のゴルフ愛好家にゴルフ・デスティネーションとしてのタイをアピールした。同フェアに合わせてタイからもゴルフ・リゾートなど8社が来日し、TATブースで情報提供した。

タイ開催の大会「ロイヤルトロフィー」に出場して以来、タイのゴルフのファンとなり、09年末から3年間にわたりタイのゴルフ観光親善大使を務めてきたプロゴルファーの石川遼選手が、契約をさらに3年間延長。今後もタイのゴルフ観光親善大使を務めることに決まり、12月にタイで行われた大会に参加した際に正式調印した。

調印式の記者会見で石川選手はタイのゴルフの魅力について「日本ならプレーヤー4人でもキャディーは1人。しかしタイではプレーヤー1人に1人のキャディーが付いてくれる。芝生のラインを読むのもとてもうまい。そういう意味でタイでのゴルフはとても贅沢な気分を満喫できる」とし、飛行機でわずか5～6時間で世界トップクラスのコースでプレーできる点も大きな魅力だと指摘した。

TATによれば、タイでゴルフを楽しむ日本人旅行者は増加中とのことで、強力な助っ人である石川選手の力も借りて、TATでは今年も日本おけるタイのゴルフ・プロモーションを積極的に展開する方針だ。

魅力的なマラソンも目白押しのタイ

タイがマラソン・デスティネーションとして注目度を上げつつある。牽引役はプーケット島で6月に開催されている「ラグーナプーケット国際マラソン」だ。2013年大会が第8回目となる同大会は、マラソン、ハーフマラソン、10.5kmラン、5kmウォーク、キッズラン（2km）と種目も多彩で幅広い参加者が楽しめる大会で約5000名が参加。海外からの参加者も多く国際色豊かな大会としても知られる。

日本でのプロモーションにも積極的で、毎年「東京マラソン」に合わせて開催される「東京マラソンEXPO」にも出展し、日本からの参加者も多く、日本でもタイ専門店のエー・アンド・エーや、エイチ・アイ・エスが提携旅行会社としてマラソン参加ツアーを商品化している。

プーケットでは、このほかにも今年で20周年を迎える「ラグーナ・プーケット・トライアスロン」が12月に開催されており、1000人を超えるトライアスリートが参加。また今年は70.3に替わって「チャレンジ・ラグーナ・プーケットトライアスロン」が新たに開催される。

プーケット以外の地域に目を広げると、タイ東北部のコンケン県ではタイ国内最大規模の5万人以上が出走する「コンケン国際マラソン大会」が開催されており、2014年は1月26日に開催が決まっている。

同じく東北地方にあるカオヤイ国立公園では何と100kmという超長距離を走る大会「The North Face 100 Thailand」は2008年にスタートし、タイ、台湾、フィリピン、中国、オーストラリア、シンガポール、日本、香港と8地域でNorth Faceが協賛する大会の一つ。来年も2月に開催を予定している。

TNF100km

さらにタイ湾からアンダマン海に向けて約140kmもの長距離を走る、8名1チーム参加の「タイランド・オーシャン・トゥー・オーシャン・リレー・ランニング」がタイ南部のチュンポーン／ラノーン間で行われている。

このほか、タイではバンコク・マラソン、チェンマイ・マラソン、パタヤ・マラソンなども開催されており、ランナーの走力や参加可能な時期に合わせて大会を選ぶことができる。

お勧めの大会

▼第8回ラグーナプーケット国際マラソン
【開催日】2013年6月9日
【特徴】参加者約5000名。日本からの参加が多い。ビーチを臨むコース
www.phuketmarathon.com/japan/index.php

▼第22回パタヤ・マラソン2013
【開催日】2013年7月21日
【特徴】日本からの参加が多い。ビーチを望む臨むコース

▼第16回アマリ・ウォーターゲート&BMWタイランド・チャリティ・ミッドナイトラン
【開催日】2013年10月19日
【特徴】タイの子供たちを支援するチャリティラン。あまり暑くない真夜中にバンコクの中心を走る

▼第26回スタンダード・チャータード・バンコクマラソン2013
【開催日】2013年11月16日
【特徴】タイで一番古いマラソン。参加者約5万名

▼第9回タイランド・オーシャン・トゥー・オーシャン・リレー・ランニング
【開催日】2013年12月8日
【特徴】大会名の通り、タイ南部のチュンポーンからラノーンまでのタイ湾からアンダマン海へ向かう約140キロのコース。8名1チームで走る駅伝方式

▼第8回チェンマイ・マラソン
【開催日】2013年12月22日
【特徴】旧市街や名所・旧跡を走り抜けるコース

▼チャレンジ・ラグーナ・プーケットトライアスロン
【開催日】2013年11月24日―12月
http://www.challengelagunaphuket.com/

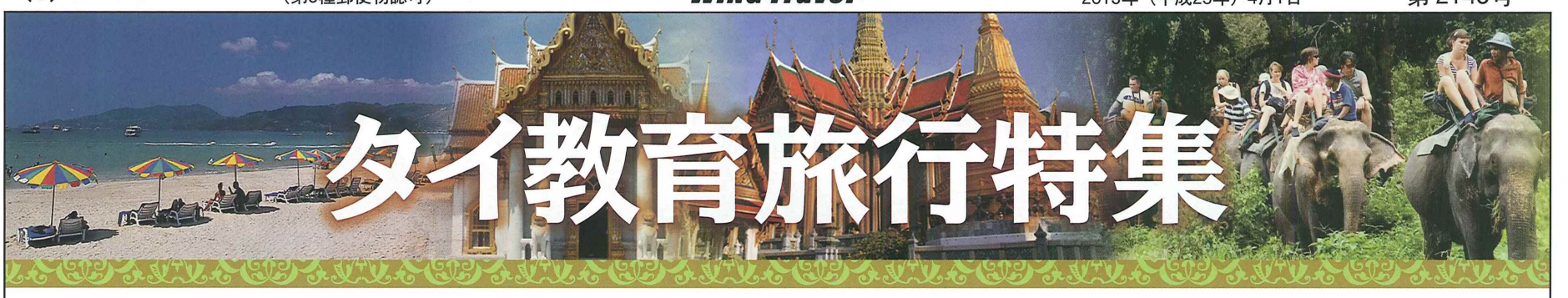
▼ラグーナ・プーケット・トライアスロン
【開催日】2013年11月24日
http://www.lagunaphukettriathlon.com/

▼第11回コンケン国際マラソン2014
【開催日】2014年1月26日
【特徴】タイ東北部イサーン地方のレース。参加者約5万名と、タイ国内最大級の規模を誇る。世界各国から参加者を集める
www.khonkaenmarathon.com/en/

サバーイ・タイランド

東京事務所　〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館2F　TEL.03-3218-0355
大阪事務所　〒550-0014 大阪市西区北堀江1-6-8 テクノーブル四ツ橋ビル2F　TEL.06-6543-6654／6655
福岡事務所　〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2 エルガーラ6F　TEL.092-725-8808
インターネット　http://www.thailandtravel.or.jp/（日本語）　http://www.tourismthailand.org/（英語）
Facebook　http://www.facebook.com/thailandtravel.or.jp
Twitter　@tat_jp

amazing THAILAND
Always Amazes You



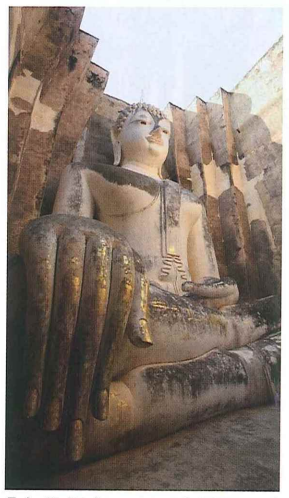
学習効果の高い体験教育素材がそろうタイ

教育旅行デスティネーションとして大注目

毎年100万人を超える日本人が訪れているタイ。ビジネスでも観光でもタイと日本の関係は深く長く、その友好の歴史から親日国としても知られている。日本語教育を取り入れている学校も多く、日本の中学校や高校と姉妹提携を結んでいる学校も少なくない。文化、歴史、自然などさまざまな教育的素材もそろい、日本からのアクセスも抜群。政情も安定し、世界経済の成長エンジンとして期待されるアセアンの中心国として存在感も高めている。異文化交流をはじめ、今のタイで学べることは多い。教育旅行のデスティネーションとしてのタイ。その潜在性は想像以上に高い。

タイ教育旅行、選ばれる6つのポイント

Point 1
歴史文化遺産の宝庫、学べる素材いろいろ

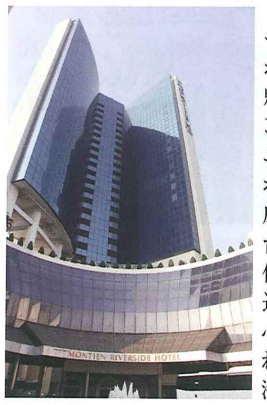


植民地になることなく独立を保ち続けてきたタイには、歴代王朝が育んできた独自の文化が今もなお残っている。スコータイ、ランナータイ、アユタヤ、トンブリー、ラタナコーシン、各王朝を代表する史跡が全国に点在している。世界文化遺産は、「古代都市スコタイと周辺の古代都市」「古都アユタヤ」「バン・チアンの古代遺跡」の3カ所。そのほか、首都バンコクや北部の中心都市チェンマイには王宮や数々の歴史的寺院があり、タイの歴史と文化を学ぶ格好の素材がそろっている。

また、東北部ナコーンラーチャシーマー県にあるピマーイ遺跡は、現在のカンボジアにも広がっていたクメール王朝の遺産。二重の周壁に囲まれたタイ最大級の大乗仏教寺院遺跡で、アンコールワットの原型になったとも言われている。このほか、第二次世界大戦中に旧日本軍が建設した泰緬鉄道の起点となった町カンチャナブリ。映画『戦場にかける橋』の舞台とったクワイ川鉄橋、JEATH戦争博物館、連合軍共同墓地などがあり、平和について考える機会として期待できるだろう。

Point 2
便利なアクセス、リーズナブルに宿泊も

日本からバンコクまでのフライト時間は5～6時間。現在（2012年度冬期スケジュール）、タイ国際航空が札幌、羽田、成田、名古屋、大阪、福岡から、日本航空が羽田、成田、大阪から、全日空が成田と羽田から、デルタ航空とユナイテッド航空が成田からバンコクへ直行便を運航している。毎年100万人以上の日本人がタイを訪れるため、その航空路線網は太い。また、時差もわずかにマイナス2時間。時差ボケの心配もなく、現地での滞在時間を有効に使って日程を組むことが可能だ。



物価が安く、リーズナブルな大型ホテルが多いのも魅力。たとえば、バンコクの「モンティエン・リバーサイド・ホテル」。ロビーが広く、エレベーター台数も多いため、修学旅行には最適なホテルだ。中心部から少し離れるが、市内の渋滞に巻き込まれることがないため、スムーズにスケジュール管理が行える点もメリットだろう。

Point 3
親日国タイ、日本との学校交流に高い関心

タイはさまざまな面で日本との関係が深く、親日感情が非常に強い国だ。第二外国語として日本語を学んでいる高校生も多く、そのレベルは驚くほど高い。日本語教育をさらに充実させるために、また国際交流によって視野を広げるために、日本の学校との交流に高い関心をよせる学校は多い。

同じことは日本の学校にも言えるだろう。学校交流による異文化体験は生徒にとって貴重な体験となり、将来への大切な財産になるはずだ。タイでは、日本語に加えて、英語教育にも力を入れており、日本語による交流だけでなく、英語によるコミュニケーション機会も少なくない。

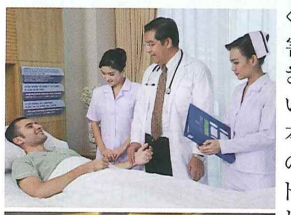
タイの文化や歴史に実際に触れる機会も教育効果が高く、学習意欲の向上につながるだろう。たとえば、民族舞踊、工芸品、少数民族、仏教の教えなど。これまで経験したことのない未知の世界にわずかでも足を踏み入れるだけで、大きな刺激になるはずだ。

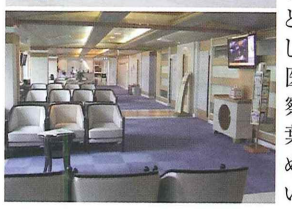
Point 4
微笑みの国の安心セキュリティと世界水準の医療

一時は政情不安が伝えられたタイだが、現在では落ち着き、従来の安定した社会に戻っている。微笑みの国と呼ばれるタイ。そもそも治安は非常によく、毎年1,500万人以上の観光客が世界中から訪れる観光立国だ。バンコク中心部でも安心して観光を楽しむことができる。

また、衛生状況も先進国並み。水道水は飲めないが、中級以上のホテルには通常各部屋にミネラルウォーターが用意されている。日本人観光客がよく使うホテルやレストランであれば食事もまったく問題ない。余計な心配をせずにタイをはじめさまざまな料理を楽しむことができる。

タイは東南アジア随一の医療体制が整っていることでも知られている国だ。バンコクには、バムルンラート病院やサミティベート病院など国際スタンダード病院として認定された医療機関もあり、そのレベルは世界的にも高い。国をあげてメディカルツーリズムに力を入れていることからも、その充実ぶりが分かる。また、バンコクには日本人医師が常駐している病院も数多くあり、日本の傷害保険が適用される病院も多い（要証券元本持参）。異国の地での体調トラブルは何かと不安なもの。しかし、日本人医師による診察であれば、言葉の問題も含め何かと心強いはずだ。

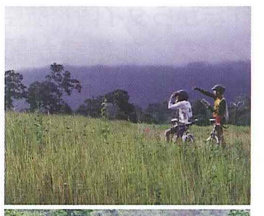


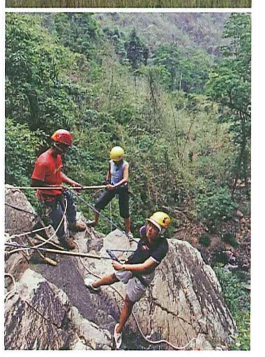


Point 5
森からビーチまで、手つかずの自然のなかで体験学習

北部の山岳地帯から南部のビーチまで、タイには多様な大自然が広がっている。バンコク、チェンマイ、プーケットなどから簡単にアクセスできる場所に手つかずの自然が多く残っており、限られた日程の中でも自然学習の機会を組み込むことが可能だ。五感に訴える自然体験学習のインパクトは強く、タイの生態系を考えるうえでも教育効果は高いだろう。

たとえば、世界自然遺産に登録されている「カオヤイ国立公園」。バンコクから200kmほどしか離れておらず、アクセスも容易だ。公園の85%が森林に覆われ、約95種の樹木が森を形成。そのなかでは多様な動物が生態系をつくっており、野生のゾウやトラ、そのほか絶滅危惧種に指定されている哺乳類も生息している。公園内では、森の中をゾウの背中に乗って巡るエレファント・トレッキングが体験可能。トレッキングコースも整備されているので、タイの貴重な自然を散策しながら学習することもできる。





このほか、ビーチではシュノーケリング、シーカヤックなどのマリンアクティビティーが豊富にそろう。仲間同士の絆を深め、協力し合う大切さを再確認できるチームビルディングに最適なプログラムも多彩にそろっている。

Point 6
タイ国政府観光庁のサポートも充実

タイ国政府観光庁では、教育旅行のプロモーションに力を入れている。タイに関する学習素材の提供、事前ガイダンスへの講師の派遣、教育旅行に関する相談など、タイに関心のある学校へのサポートを実施。今後さらに若い世代の日泰間交流を側面支援していく方針だ。

日本との学校交流を積極的に推進
カセサート大学付属学校の例

日系企業も多く進出しているチョンブリーにあるカセサート大学付属学校のマルチリンガルプログラムでは、日本語教育に力を入れており、その一貫として日本の学校との交流にも積極的に取り組んでいる。

これまでの実績としては、立命館宇治高校との交流で、カセサート大学付属学校からタイの長期休暇時期である10月に、立命館宇治からは夏休みの期間にそれぞれの学校を訪問した。また、実践女子高校とは約1ヶ月間の交換留学プログラムを実施した実績もある。さらに、2011年からは和歌山県立星林高校との交流もスタートさせた。

同校のマルチリンガルプログラムでは、小学校1年生から英語を学び、4年生になると英語に加えて、日本語あるいは中国語が選択必修になる。日本語コースでは、日本語学習だけでなく、日本文化の理解にも熱心に取り組んでおり、さまざまなイベントを実施することで日本文化の紹介にも一役買っている。

サバーイ・タイランド

TOURISM AUTHORITY OF THAILAND

東京事務所　〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館2F　TEL.03-3218-0355
大阪事務所　〒550-0014 大阪市西区北堀江1-6-8 テクノーブル四ツ橋ビル2F　TEL.06-6543-6654／6655
福岡事務所　〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2 エルガーラ6F　TEL.092-725-8808
インターネット　http://www.thailandtravel.or.jp/（日本語）　http://www.tourismthailand.org/（英語）
Facebook　http://www.facebook.com/thailandtravel.or.jp
Twitter　@tat_jp

amazing THAILAND
Always Amazes You